



# 探究ニュース Access No.2

発行日 令和元年7月19日

探究部では、皆さんの「好き」とことん追究する活動を応援しています。今回の探究ニュースでは、この夏休みに様々なコンテストへの参加や活動を行う八王子東生の様子を紹介します。

## 目次：

国際言語学オリンピック I

夏休みの活動 II

体験活動

プロジェクト

44期生 III

1学期の活動

特別授業 IV

## I. 国際言語学オリンピック世界大会出場！

3学年の高橋翼君が国際言語学オリンピック世界大会、日本代表に選出されました。そこで、高橋君にインタビュー！

### ◆言語学オリンピックとは？

数学、化学、地理などの数ある国際科学オリンピックの1つです。国際大会は2003年から開催されており、科学オリンピックとしては最も新しいです。日本は2012年から国際大会に代表を送っています。今年は3月末の日本言語学オリンピックで代表8名が選出され、7月末から8月の初めにかけて韓国で国際大会が行われます。

### ◆どのようなことを競うの？

この競技で問われるのは、個別の言語に関する知識ではありません。出題されるのはメジャーな言語ではなく、実際の言語研究で問われるようなマイナーな言語です。その言語を分析して法則や仕組みを導き出す論理的思考力が試されます。よく出題されるタイプの問題として、与えられたある未知の言語の文とその訳のセットから語順や時制の表し方などの文法を導きだし、それに基づいて日本語からその言語への翻訳をしたり、その逆をしたりするというものがあります。他にも、数のある言語に訳したものをいくつか与えられて、その言語における数の言いあらわし方の規則を発見するといったものがあります。世界の言語には日本語や英語のような10進法ではなく、5進法や12進法などを使っている言語もあります。人間の言語の多様性が感じられてとても面白いです。過去問を見てみて下さい。

### ◆言語学オリンピックに出場した動機は？

SNSでたまたま存在を知り、問題を解いてみたところとても面白かったからでした。3月末の予選以前は日本やイギリス、北アメリカなどの国内予選の問題を解いたり、問題の解説をしたブログなどをみたりして練習していました。今は韓国で開催される7月末の国際大会に向けて鍛錬を重ねています。

### ◆後輩たちへのメッセージ

科学オリンピックには他にも数学・化学・地理・哲学などの様々な分野のものがあります。大学生になると代表になれないものが多いようで、高校生のうちにしかできない経験ができるかもしれません。また、大学入試のアピールポイントにもなるかもしれません。最後に、言語学でなくとも、自分の興味・関心のある分野について色々挑戦してみてください。

## II. 夏休みの活動～体験活動・プロジェクト～

ヒガシ生の夏休みの探究活動について、その一部をご紹介します。ヒガシ生による「自ら学ぶ・自ら考える・自ら創る」活動です。皆さんも、「知りたくて…」その知的好奇心を満たすような素敵な夏休みを送ってください。

### 多摩川水系研究プロジェクト

私たちが行っている多摩川水系プロジェクトは、京都大学や全国の6つの高校との共同研究です。「京大 森里海ラボ」の一環として生徒13人が自ら設定した探究テーマで活動・研究を進めています。テーマは地理・歴史的観点や生物学的観点など様々です。このプロジェクトは京都大学主催のため、7月末に1度京都の芦生原生林での森林フィールドワーク実習に参加し、大学の先生方のアドバイスを受けます。その結果を持ち帰り、テーマの決定、調査研究をしていく予定です。3月末には京都大学で研究発表があるためメンバー一同、精一杯頑張っていきます。(1年 男子)



### 海外プロジェクト探検隊

サステナビリティをテーマに日本の企業が参画するオランダ最大の洋上風力発電プロジェクトを視察するほか、イギリス・大英博物館「日本ギャラリー」などを見学します。ツアー中は高校生サポーターとして日本企業が手掛けるビジネス最前線を訪問するほか、現地の人と交流し、帰国後その体験を中高生新聞の紙面、サイトなどを通じて発信します。(2年女子)

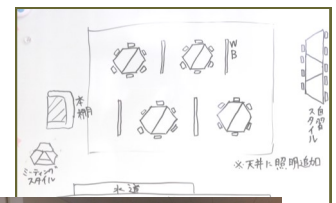
### ふくしま「学宿」～福島県教育旅行モニターツアー～

東日本大震災や原発事故の概要と放射線や環境問題、復興に向けた取り組み、震災・原発事故の教訓をどう活かしていくのかなどについて2泊3日で学びます。7月14日には事前学習を行い、参加校との交流を行いました。来月、現地でフィールドワークを行います。(1年男子)



### ラーニング・コモンズプロジェクト

ラーニング・コモンズとは多様な学習形態に対応できる施設です。大学の図書館をイメージしていただくとわかりやすいと思います。私たちは校舎の3・4階の階段前フロアをラーニング・コモンズとして整備し、自習などの学習スペースとしてだけでなく、教え合いや部活動、さらに探究活動その他さまざまなことに活用出来るようにしたいと考えています。1・2年生合同で「機能としての使いやすさ」と「居心地の良い空間」をコンセプトに、自分達でイメージを膨らませ、デザインを考えています。完成は12月頃の予定です。ぜひ活用してみてください。(2年女子)



### III. 44期生 1学期の活動

44期生1学期は、探究活動の基礎となる「問い」の出し方・学びの深め方・先行研究整理のための文献講読や文献リストの作成などを行いました。夏の探究課題A(個人研究)に向けて、様々な先生と相談を繰り返しながらテーマ設定やフィールドワークの実施計画などを立てました。また、研究者の方の講演会などにより研究と社会の課題との関わりについて理解を深めました。

#### 【講演】探究テーマの社会的意義とSDGs(5/20)

国連による持続可能な開発目標 (SDGs) の視点から、研究と「世の中」の課題解決との関わり、についてご講演いただきました。

#### 【講演】レコメンデーション入門:持続可能な未来に向けて~「人と情報を繋ぐ」研究と社会(6/10)

システムデザイン研究の立場から、実際の研究事例の紹介を通じて、課題設定の方法や研究の進め方についてご講演いただきました。

#### 〈Voice〉

- ・自分が最初に設定したテーマが世の中と関わりをもっていなかったとしても、そのテーマからさまざまな問いを掲げると世の中に結びつくものがたくさんあった。
- ・研究は日々の活動であり、毎日の生活の中でいつも問いを探ることが重要、と聞いて、自分も日常的に色々な物事を批判的に見る目を養いたいと思った。

#### 【探究課題A】~夏の個人研究~

探究基礎の授業では、探究課題Aの準備を進めています。探究課題Aとは、ヒガシ生が最初に行う探究活動です。探究基礎や国語探究など、様々な教科・科目で得た知識や考え方を応用して、以下の流れで行います。生徒自身の「好き」を追究して欲しいと考えています。

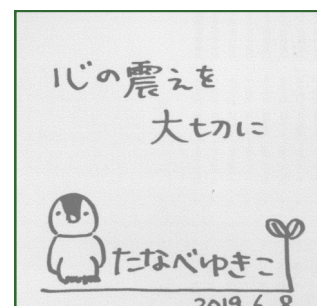
- ①自分の探究したいことを考える。
- ②そのことについての文献リストを作り、文献を読む(GW, Aブレ)
- ③読んだ文献についてレジュメをまとめ、文献を他人に紹介する。
- ④さらに複数文献等を調べ、知識を深める。
- ⑤夏休みに何を行うのかを考える。
- ⑥先生方にアドバイスを頂く。
- ⑦夏休みに、外部の講演会やワークショップへの参加、施設訪問等に行き、知見を深める。
- ⑧結果及び考察を、論文形式でまとめる。

### IV. 特別授業

#### 『科学者への道のり地球の果てで研究すること』

国立極地研究所 田邊 優貴子 先生

英語の教材の主人公・田邊先生の足跡・研究者としての生き方・研究の内容を直接聞くことのできる貴重な機会となりました。英語科×生物科のコラボ企画に、多くの生徒が参加。刺激的な内容に、講演終了後も質問の列が絶えませんでした。



#### 『模擬裁判』 一般社団法人リーガルパーク 今井 秀智 先生

現役の弁護士を講師としてお招きし、模擬裁判を実施しました。刑事事件を事例として、生徒は検察官・弁護人・裁判員にわかれ裁判員裁判を体験しました。事前指導として本校公民科の教員が民事・刑事裁判の違いや人権・司法の仕組みについて指導・ディスカッションを行いました。生徒は証拠や論述をもとに有罪か無罪かの判決を出すことの重さ・難しさに気づき、司法制度について深く学ぶことができました。質疑応答も積極的に行う姿が見受けられました。

